



あなたの女子力を、地元の力に。

活躍する女性消防団員

消防団員というと男性を思い浮かべることが多いが、女性団員も増えており、仕事や子育てをしながら、「地域の役に立ちたい」と活躍の場が広がっている。

自分たちの地域を自らが守る

消防というと火災時の消火や災害対応を第一線で行う消防署の消防士のイメージが強いが、各地に「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づき、消防団が組織されている。消防団は消防署と連携しながら、地域に密着し、住民の安全と安心を守るという重要な役割を担っている。県内には全ての市町村で消防団が結成され、計30団体579分団、37,252人(2017年4月1日現在速報値)が活動している。そのうち女性消防団員数は680人で増加傾向にあるが、全国平均に比べるとその割合は低く、より多くの女性消防団員を必要としているのが実情だ。消防団の活動には、女性に適していることも多いからだ。

「出初(でぞめ)式、春と秋の消防演習の後方支援、応急手当の指導、幼児の防災教育、高齢者のお宅を訪問しての防火指導など、さまざまな活動があるのでやりがいがありま

す」と、入団4年の田辺千恵さん。家事で忙しいが自分の都合に合わせて活動できることにも、魅力を感じているという。

活躍の場が広がる女性消防団員

消防団の活動には、地域の防災リーダーとして地域住民への出火防止、初期消火、応急手当などの指導、消火や救出救護の訓練、災害が発生した際の消火活動や救出活動などがある。さらに田辺さんが話すように女性ならではの活躍の場がある。

「消防団の活動の時は、家族が協力してくれるので、気兼ねなくできます。応急手当の方法やAED(自動体外式除細動器)の使い方など、もしもの時に地域の人たちのためになったらと思って、日々いろんなことを学んでいます。覚えることがたくさんあり、人前で話すのは緊張しますが、楽しく活動させてもらっています」と、入団11年になる佐藤恵美

さんは前向きに取り組む。

保育士、介護士の資格を持つ日下愛未さんは、入団して3カ月。「まだ活動回数は少ないですが、児童クラブに出向き、紙芝居で火事の怖さを話しました。消防団という、消火活動をするイメージしかありませんでしたが、違っていました。私が持っている知識を生かして、地域に貢献したいです」と、意欲的だ。

地域を守る仲間を増やしたい

消防団員は非常勤特別職の地方公務員という身分になる。入団すると、報酬や手当などの支給、公務災害補償、被服の支給などを受ける。また、地域で活躍する消防団を応援するため、県では「にいがた消防団員サポート制度」を昨年12月から開始。県内の消防団員とその家族が、制度に協力するサポートショップで団員カードを提示すると、割引などのサービスを受けることができる。こと7月時点で700を超えるサポートショッ



幼稚園や保育園などに出向き、紙芝居や劇などで子どもたちに防災教育を行う

プがある。

「サポート制度を活用しています。消防団に入ることで、私たちもサポートしてもらっている。ありがたいです」と、佐藤さんと田辺さん。入団して間もない日下さんも、「これからぜひ活用したい」と話す。

「地域を思う仲間と一緒に、消防団として活躍しませんか」と、女性消防団員の皆さんは呼び掛ける。市町村によって消防団の入団に年齢制限がある場合があるが、消防団員になるための特別な資格は必要ない。入団したいという人は、ホームページで最寄りの消防団を探して、連絡してみよう。



1 新潟市消防団で活躍する(左から)日下愛未さん、佐藤恵美さん、田辺千恵さん。それぞれ家庭や仕事を持ちながら、消防団の活動に取り組んでいる 2 一人暮らしや65歳以上の家庭を回って、防火指導をする。「ありがとう」と感謝されることがうれしいそうだ 3 市民に応急手当の方法やAEDの使い方を指導。もちろん、市民に指導をする前に団員はきちんと教育を受けられる



まずは近くの消防団を探してみよう

あなたの街の消防団



<http://www.fdma.go.jp/syobodan/search/15.html>

問い合わせ

新潟県防災局消防課 TEL.025(282)1664

<http://www.pref.niigata.lg.jp/shobo/1195661782698.html>

新潟県の消防団facebook <https://www.facebook.com/niigatakennoshouboudan/>